

一般国道417号

冠山峠道路

冠山峠レポート No.8



平成 16年 5月

冠山峠道路研究会

あ い さ つ

日本の国土面積に占める山地面積は約7割に達している。また山脈や山地が南北に走っている場合が多いため、東西方向の交通が妨げられていた。さらにこれらの山地から流れ出る多くの河川は東西方向に海洋に注ぎ、このことが南北方向の交通を阻害してきた。そのため人々は河川によって造られた大小の沖積地に半ば閉じこめられたかたちで生活の場を確保してきたといえる。しかし人々はこのような地形的な状況に置かれながらも諸々の分断要因を乗り越え、他の同じような状況に置かれた地域との交流を図ってきた。山地には峠を開き尾根の向こう側に行き来した。

しかしながら、モータリゼーション時代ともいえる現代、多くの県境地域の市町村においては、人口減少問題等による地域の活力の低下が深刻な問題となっている。このため、各市町村では各種の施設整備やイベントの実施といったように様々な「活性化」への取り組みがなされている。しかし、単独市町村でいくら「活性化のための施策」を行ったとしても、実際は思うような成果が上がっていないのが現状である。特に、一年中通行が可能な幹線道路で連絡されていない県境地域では現実的な交流が生じにくい。

上記の背景の中で、平成7年12月に「新たな地域の連携を求めて」～冠山峠を越えて～というテーマで開催されたシンポジウムを受けて、冠山トンネルの建設を目指し、その建設効果と意義について報告書がとりまとめられた。また、「交流と連携を目指したみちづくり」を今後のまちづくり、地域開発に活かしていくために、継続的な調査を重ね、その意義を広く公報していくことを目的として、平成7年3月25日に「冠山峠道路研究会」が発足し、その効果を実証的に明らかにするための調査研究が平成8年度から始められた。

このような長年にわたる地元の熱意ある取り組みと関係者各位のご尽力のかいがあって、一般国道417号冠山峠道路(7.8km)は、晴れて平成15年度の国の新規事業に採択されたのを受け、杭打ち式が平成15年8月に行われた。また、国の直轄事業として平成25年度を目処に完成させるべく、国土交通省近畿地方整備局福井河川国道事務所により地質調査が着手されることとなった。

本レポートは、平成15年度の調査研究及び当研究会のこれまでの調査研究の成果等を広く公開するためにまとめたものである。当研究会は、一般国道417号沿道地域の今後の発展の基盤となる冠山峠道路の開通に向けて、今後も引き続き調査研究を進め、その成果等を広く広報していく予定である。

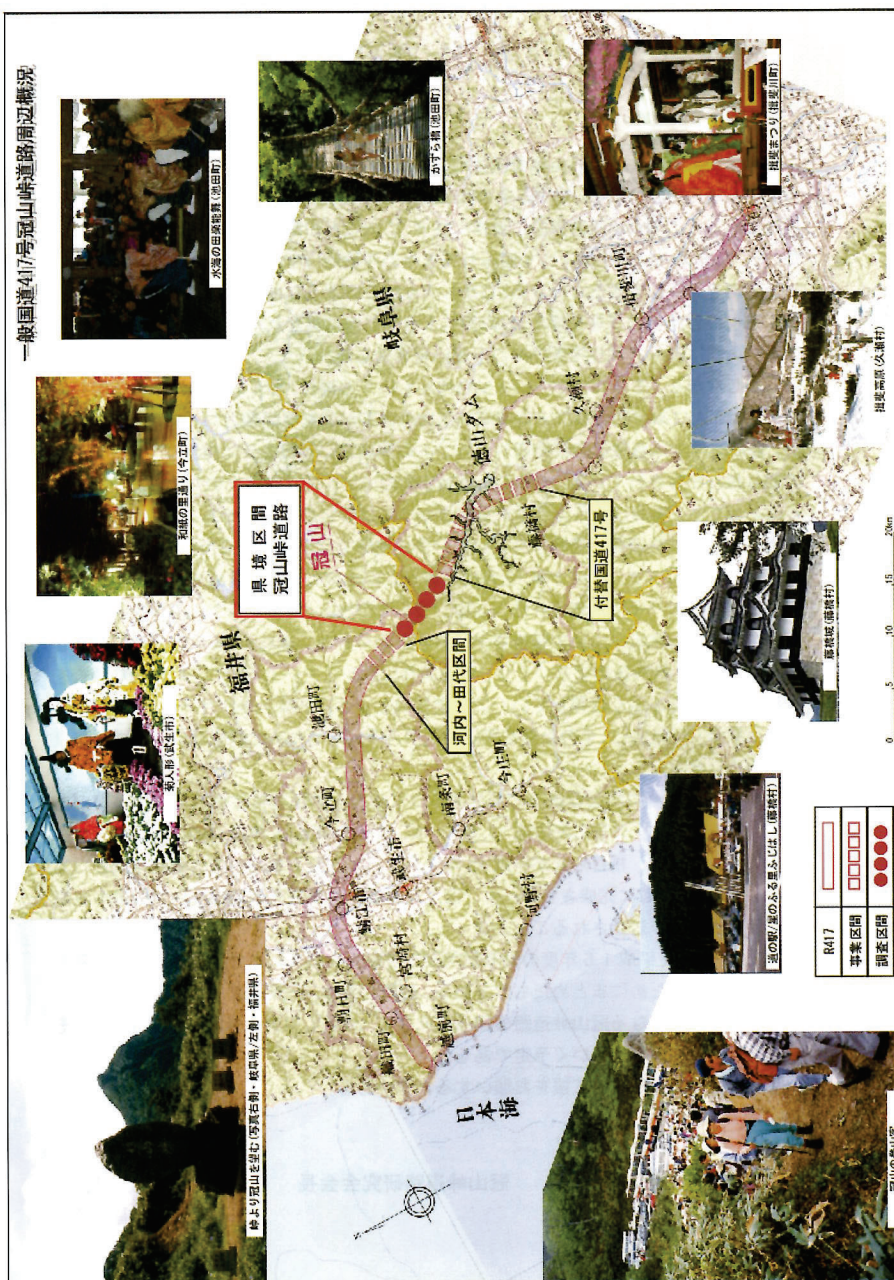
関係者各位の一層のご支援をお願いする次第である。

平成16年 5月

冠山峠道路研究会会長

本 多 義 明

(福井大学副学長)

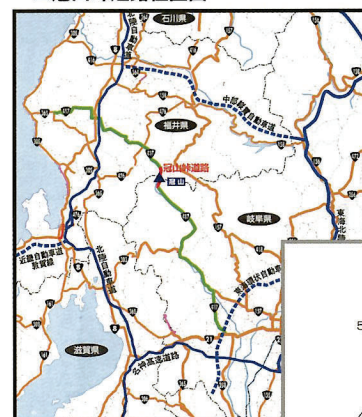


1. 冠山峠道路の計画概要

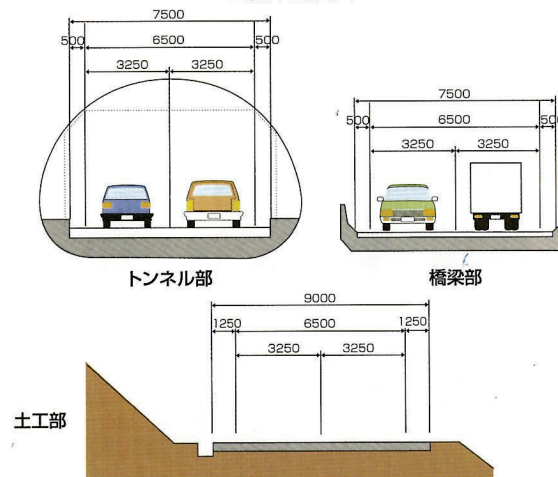
一般国道 417 号は、福岡県丹南地域と岐阜県西濃地域を直結するばかりでなく、名神高速道路、北陸自動車道、東海北陸自動車道、東海環状自動車道(事業中)で形成される高速大環状ネットワークを、中部縦貫自動車道(事業中)とともに3つの小環状ネットワークとする重要な路線で、広域道路(交流促進)の指定も受けている。

現在、峠部が交通不能区間となっているが、「冠山峠道路」事業と整備中の徳山バイパス及び河内田代バイパスと連結することにより年間を通して安全で円滑な交通が可能になる。

■冠山峠道路位置図



■標準断面図



■計画道路の概要

計画区間：岐阜県揖斐郡藤橋村塚奥山～福岡県今立郡池田町田代
計画延長：約7.8km 車線数：2車線
道路規格：第3種第4級 設計速度：時速50km

一般国道417号 冠山峠道路 福井県池田町で

「杭打式」

平成 15 年 8 月 2 日 举行



国道417号冠山峠道路の現地測量を前に、くいを打つ谷口博昭・国交省近畿地方整備局長（左）ら＝2日、池田町田代

冠山峠道路に着手

国道417 池田でくい打ち式

池田町と岐阜県藤橋村一帯は、冠山峠付近で交通を結ぶ「国道417号冠山峠道路」が本年度に新規事業として採択されたのをきっかけ、くい打ち式が二日、池田町田代で行われた。丹南地区と岐阜県の西濃地区を結ぶ国道417

量を始め、前に円滑な事業推進を祈願して行われる。この日は国土交通省近畿地方整備局と福井、岐阜両県の関係者、県選出の国會議員、沿道の市町村などから来賓六十人が出席した。近畿地方整備局の谷口博昭局長が「冠山峠道路は、丹南と西濃両地域の生活、文化、産業の再生に寄与すると確信している」とあいさつ。冠山峠道路工事の起点となる地点で、来賓十二人が二人ずつ、ヒノキのくいを木づちで打っていた。

平成 15 年 8 月 3 日付 福井新聞記事より



内閣官房副長官 参議院議員 山崎正昭 (左)
参議院議員 松村龍二 (右)

2. 冠山峠道路整備による効果

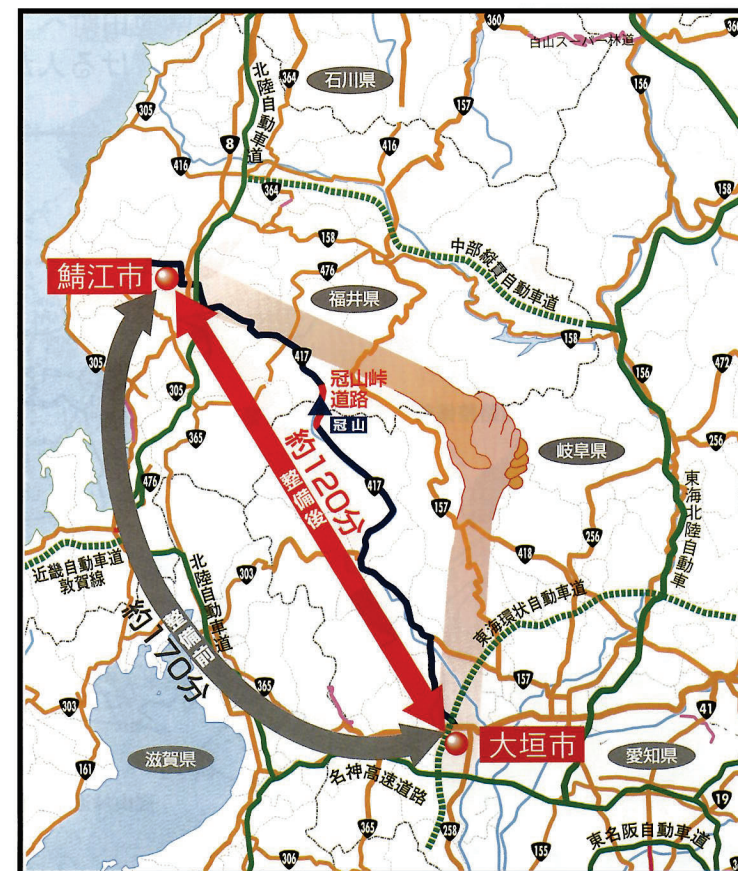
(1) 都市間の時間短縮効果

冠山峠道路の整備によって、

○鯖江・大垣市間、8号・21号を迂回して約2時間50分の所要時間が、**約2時間に短縮**。

○池田町・藤橋村間、8号・21号を迂回して約4時間10分の所要時間が、**約40分に短縮**。

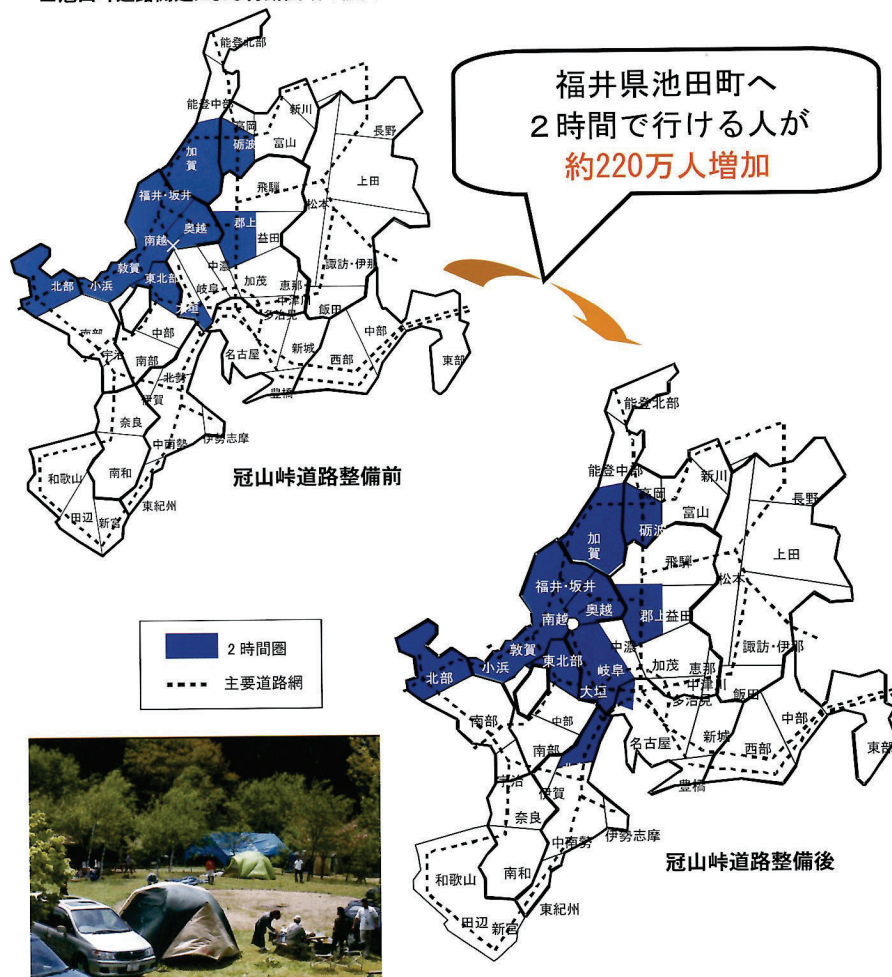
■冠山峠道路開通による時間短縮



(2) 行動圏の拡大効果

中京圏から北陸への玄関口にあたる沿道地域においては、このような行動圏の拡大効果を最大限に活用した**広域連携・交流の促進、広域観光の推進**に向けての諸施策を具体化すると同時に、観光資源・地場産品など**沿道地域の情報を発信するための拠点整備**を図る必要がある。

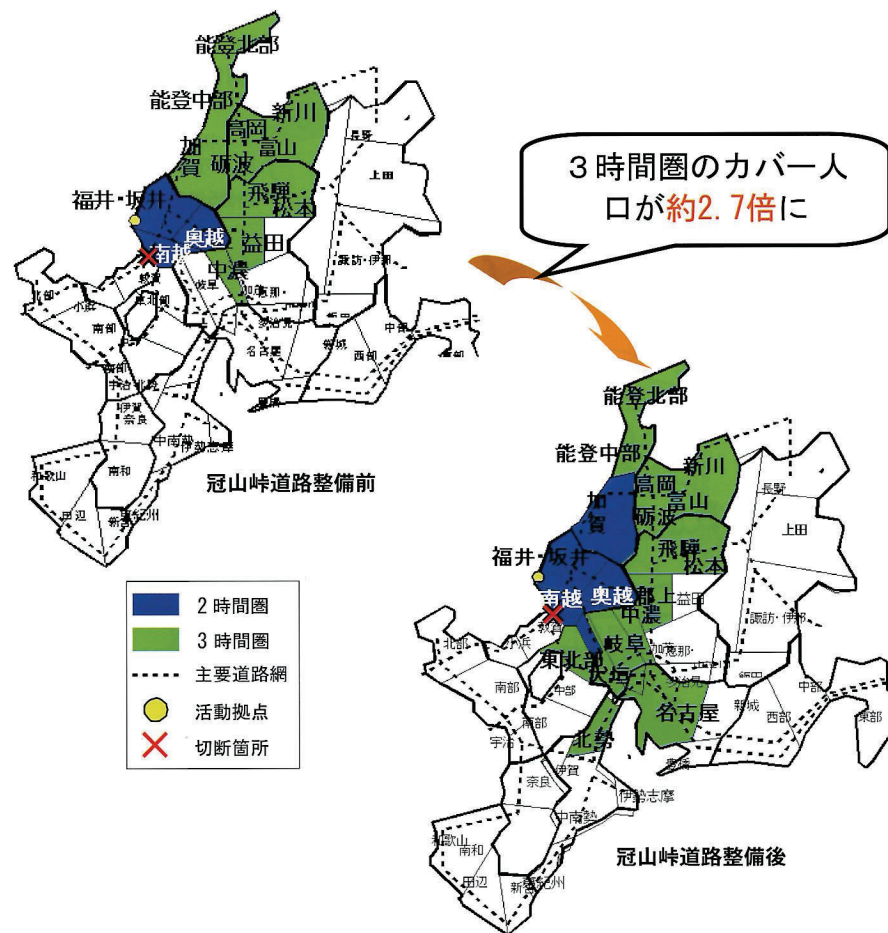
■冠山峠道路開通による行動圏の拡大



(3) 災害時におけるリダンダンシー効果

冠山峠道路の開通によりもたらされるリダンダンシーの向上効果を踏まえて、**救急医療、防災活動**等の広域的対応を図るための諸施策や、災害時にもルートが確保されることにより観光活動において通年型の観光施策を推進する必要がある。

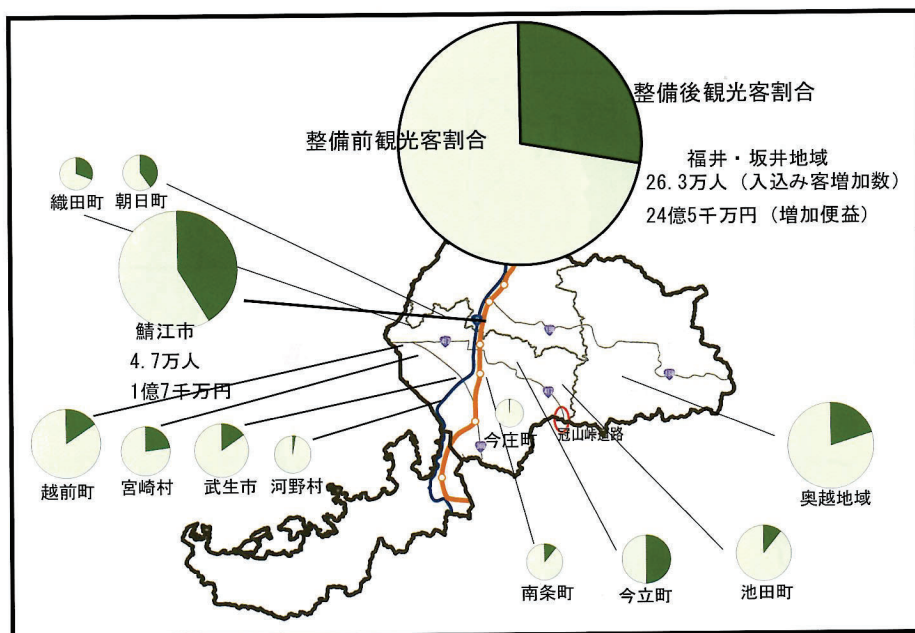
■冠山峠道路開通によるリダンダンシー向上



(4) 観光面への開発効果

一般化時間が短縮されることにより、これまでの観光客が隣県の観光地へ流出することも考えられるため、観光客を福井県に引き付ける魅力ある**観光環境づくり・観光施設の整備・連携**に向けての諸施策を推進する必要がある。
※一般化時間=走行時間+走行経費/時間価値

■冠山峠道路開通後に予想される観光客入込み数



(5) 観光への波及効果

冠山峠道路開通により、沿道地域の観光資源を活かし、福井・岐阜両県を周遊できる**周遊観光ルート**の整備が可能になる。そのため、魅力ある観光資源づくりに向けた諸施策を推進する必要がある。

■冠山峠道路開通後の周遊観光イメージ



3. 冠山峠道路開通に向けての期待および取り組み

一般国道417号冠山峠道路は杭打ち式も行われ、開通が近づいてきている。そこで、開通に向けての期待および取り組みも具体的なものになっていると思われるため、平成15年11月に冠山峠道路のPRを兼ねて、キャラバン方式で沿道自治体および関連団体を回り、ヒアリング・アンケート調査を行った。

■概要

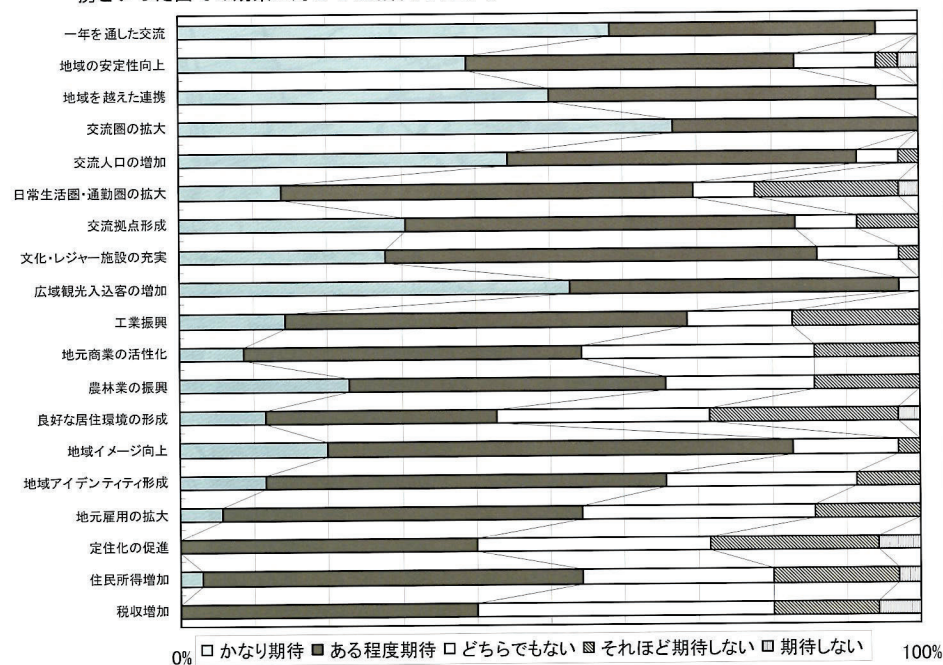
調査対象：一般国道417号沿道13市町村の自治体（道路建設関係部署）、
および関連団体（農林漁業・商工業・観光関連）

配布数：13×4＝52票

回収率：36/52＝69%

■冠山峠道路開通に向けての期待

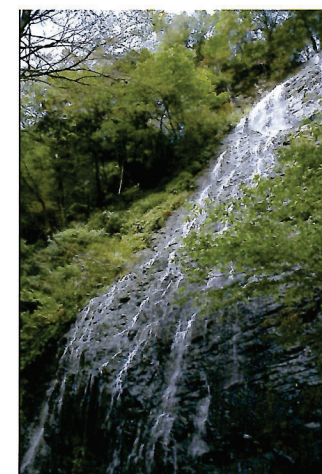
これまで、困難であった冬季を含む一年を通した両地域の交流、交流圏の拡大や観光入込み客増加といった交流・観光面での効果に対して期待が大きいことがわかる。また、県境部に近い町村においては、都市部との連絡強化による防災面での地域の安定性向上や、地域連携といった面での効果に対しても期待が大きい。



4. 沿道地域に必要な施策

これまでの調査研究より沿道の地域特性や道路整備効果の分析結果等を踏まえて、冠山峠道路の整備に合わせて、国、県、市町村、産業界、地域住民が一体となって取り組むべき施策について、7つの具体的施策を提案している。

関連セクター	注目する効果項目	整備コンセプト	必要施策
交通セクター	災害時のリダンダンシーの向上	災害に強い地域づくり	耐雪力の確保 安全・安心の交通環境整備
交流セクター	施設の充実	新たな玄関口の創造	広域交流情報発信・収集拠点の形成
産業振興セクター	観光業振興	新たな観光ルートの開発	広域連携イベントの開催 周遊ルートの開発 共同集配システムの確立
人口セクター	交流人口の増加	道路による地域開発	市町村間の連携・協力体制の強化



冠山峠道路研究会の活動経緯 ～冠山峠道路開通に向けて～

平成 7 年度

- ◇平成 7 年 12 月 一般国道 417 号沿線市町村シンポジウム
(福井県池田町・能楽の里文化交流会館)

テーマ：新たなる地域の連携を求めて～冠山峠を越えて～



- ◇平成 8 年 3 月 冠山峠道路研究会 発足 (第 1 回冠山峠道路研究会の開催)

平成 8 年度

- ◇平成 8 年 8 月 三遠南信地域視察、建設省・飯田市と意見交換
◇平成 8 年 10 月 岐阜県藤橋村との交流会

平成 9 年度

- ◇平成 9 年 10 月 国道 304 号五箇山トンネル視察、富山県平村と意見交換

平成 10 年度

- ◇平成 10 年 8 月 県道洞川下市線地蔵トンネル視察、奈良県黒滝村と意見交換会
◇平成 10 年 12 月 一般国道 417 号沿線市町村フォーラム
(福井県池田町・能楽の里文化交流会館)

テーマ：交流と連携による地域づくり～活気みなぎる西濃・丹南圏の創造～



平成 11 年度

- ◇平成 11 年 10 月 国道 361 号権兵衛トンネル視察、
建設省・長野県・伊那市と意見交換会

平成 12 年度

- ◇平成 12 年 8 月 国道 140 号雁坂トンネル視察、山梨県と意見交換会、
雁坂トンネル有料道路の管理について意見交換

平成 13 年度

- ◇平成 13 年 10 月 国道 313 号犬伏トンネル視察、鳥取県・関金町と意見交換会

平成 14 年度

- ◇平成 14 年 11 月 国道 426 号登尾トンネル・国道 482 号たんたんトンネル視察、
兵庫県但東町と意見交換会

- ◇平成 15 年 2 月 一般国道 417 号フォーラム (福井県鯖江市・嚮陽会館)

テーマ：交流と連携を目指したみちづくり～平成 15 年着工を目指して～



平成 15 年度

- ◇平成 15 年 10 月 第 19 回冠山峠道路研究会の開催 (池田町 志津原『冠荘』)
◇平成 15 年 11 月 冠山峠道路開通に向けての期待及び取り組みに関する調査
(国道 417 号沿道市町村へのキャラバン)

平成 15 年度冠山峠道路研究会名簿

会 長	本多 義明	福井大学 副学長
	武井 幸久	福井工業高等専門学校環境都市工学科 教授
	嶋田 喜昭	大同工業大学工学部 講師
	川本 義海	福井大学工学部 助手
	高橋 茂夫	国土交通省福井河川国道事務所 副所長
	橋本 拓己	国土交通省奈良国道事務所 副所長
	藤田 法彦	国土交通省福井河川国道事務所 調査第二課長
	武田 雅行	福井県今立土木事務所 所長
	近藤 幸次	福井県土木部高規格道路推進課 課長
	和田 義則	福井県嶺南振興局敦賀土木事務所 次長
	森下 禎一	福井県土木部道路建設課道路計画 G 主任
	福岡 良二	福井県今立土木事務所地域整備課整備 G 主任
	高橋 正樹	地域整備アドバイザー（元福井県土木部長）
	加藤 式男	福井大学地域共同研究センター 研究員
	加藤 一郎	福井県土木部道路建設課道路計画 G 技師
	夏梅 孝夫	福井県鯖江市道路建設課 課長
	川瀬 雅治	岐阜県藤橋村産業建設課 課長
	山腰 雅治	福井県池田町建設課 課長

事 務 局

	江端 正一	福井県池田町建設課 課長補佐
	辻岡 昌利	福井県池田町建設課 主査
	村松 俊明	財団法人 地域環境研究所 事務局長
	松井 達也	福井大学大学院工学研究科 博士前期課程
	杉田 鉄平	福井大学大学院工学研究科 博士前期課程